



愛知県有物品

滑川談

塚田多門虎述

述意

古より世々盛衰ありしを和漢ともに代々此書記ありて
 皆乃知前ゆき書後系代と明ふべきは是非得る辨
 正しこれ言の跡無き者心中と考へて其の流のたを多き
 又表すは代々と略くし波りて吾想邦安分れれをの
 流をりて者中心と喜まふか阿順の言のよ者とをを記述すも
 昔より言の跡正ける代を少く書れは代を多し中外の正典の
 流の寄者時世は過りて世を多しと考へて世に廢れし人乃

滑川談

上

一

聚賢堂



A154
 ツ
 3



多ぶたにこれを周するは則ちこれと廣れ別れととて抑
 聖人ののみなれ志願は今や十歳を一過せしや感服
 伊代生きたりぬれ河を九牛此一毛も世の律乃助らるべき
 りともいふは海一に思ふともわたり予をさす亦才を智の者ハ
 又ふ小童をさしめく且を位を立たれ其政と博くす君を
 思ふのさし位をせと聖人を誠め重くすも畏れ賤い
 身として國家の政務はるふ人と彼とさしめると述す君
 著も者うへある予をて懸すともさすの思ふはりされも
 かく古乃聖賢之道と學ぶ者ハぬれりとも天地を

前ふを道理のむとぬといふもはさしめられし後の世を懐はせともた
 聖賢之道を推して半小思ひもさすの思ふはりとも
 向人もあはさ同と懸して言ふ事と教て聖人を禁一日ふりも
 何はさすも聖賢の言をくくはさす不詢の謀はむこと分れすハ
 聖賢乃誠なれとすく聖賢れ及て規矩と其規矩は合ふは
 臆説とはいふはさす又齊の晏嬰晋の叔向とハ何れとも各さ
 賢人分れとも其共國の政事れをわすもく教を成人おさす
 心字とまてそ濟くつひやく同志の心をさす思ふとまて
 法はる大切なり學問切確のた分れりともさす者も事ハ注ぎ時

勝とてその考あまのほきぬく同志乃今を治るはくはれり
かゝり何あそれ中まきと流るはり了る高きこれより後
まるとまげれば昂逸ま生るき脚直して椽楯の艱難と
小人乃堂成すすこれ耽樂まき浮よといひ又世縁を家能禮よ
依ると少く傷よひて徳と凌が実不天道下情を赦化會兼る世
流と回をもとりて右今和漢とも左平の永く流るはり次
世の中安逸不慣て貴賤上下此禮義も下を教傷はるは凡と
ひて孝悌忠信を徳と凌を犯し実不天道不情と違ひて凡俗皆
會後く流るはりまはれば又ま時よりとりて世と乃會後流るは

矯らねるとく儉約賢まふ乃政事とてままきられむ一夏の
代名政す鬼神とをまけ人事とをのり深堂をまき一威
罰成後一して治るとまま末よりとりて世との人々驍傲野鄙の
凡俗も成りて礼をこれ般の代はかりてま夏の世を赦したる
をばさんぬふ鬼神成生す一人を後か一四封とせん一賞成後
治りぬまふ又其事不効りて世との人々を教傷よりまをひか
凌を争ひ秘と知るは風俗をまけて礼をこれ周の代り
をまて又ま般の世まを赦と矯らねるは乃まふ禮義とま鬼神
とをまけ堂を成はれけ能治ると又ま周乃代と

東よりて、世との風俗、を巧利の、故はて、憂、ぬ、ば、不、代、と
 散と、その、あ、ら、存、す、の、ハ、唯、夏、股、固、ま、と、一、天、下、は、変、革、す、時、の、
 小、の、あ、ら、く、次、凡、人、君、の、世、に、亦、を、散、向、ふ、ま、だ、れ、又、世、の、世、に
 新、す、の、毎、よ、そ、く、得、あ、ら、ぬ、ま、ら、ぬ、に、そ、れ、を、善、修、善、漸、の、風、俗、を
 矯、め、つ、す、に、儉、約、堅、素、に、改、め、と、さ、す、ま、さ、く、の、の、の、の、の、
 儉、約、堅、素、乃、散、あ、ら、ぶ、ま、ら、ぬ、に、所、於、て、學、子、者、の、思、意、と
 廻、く、す、ま、さ、く、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 中、て、波、の、混、乾、九、疇、と、し、つ、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 が、く、く、く、く、と、是、と、九、章、よ、か、つ、て、志、す、す、と、し、つ、

儉約第一

凡、世、の、中、此、人、情、を、争、角、不、利、奇、を、得、ま、さ、く、と、好、ま、ず、常、の、古、の、
 一、と、は、解、小、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 又、も、所、と、し、理、を、明、か、ら、し、め、て、古、の、の、の、の、の、の、の、の、
 後、く、次、固、ま、し、め、ら、れ、る、理、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 理、を、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
 人、情、と、を、乃、聖、賢、の、道、と、對、し、な、る、に、亦、ぬ、ま、ら、ぬ、に、
 世、の、人、乃、皆、初、れ、ま、ら、れ、る、に、亦、ぬ、ま、ら、ぬ、に、
 又、も、次、固、ま、し、め、ら、れ、る、に、亦、ぬ、ま、ら、ぬ、に、
 又、も、次、固、ま、し、め、ら、れ、る、に、亦、ぬ、ま、ら、ぬ、に、
 又、も、次、固、ま、し、め、ら、れ、る、に、亦、ぬ、ま、ら、ぬ、に、

新領と知りて財宝をかりきりて世の衣冠に布衣の
 服せず飯の菜は焼塩干魚一ツを卯合食せされ世の
 人の苦しみもさうも惜みず情なくして困窮者
 と見做ひ之げ人或時強ひて其は清川の河邊に
 燧袋たいぶくろ入る持て家財を十文取はつて川中へ入る
 の物なきはうやうしとわれとて以てをうりて人の
 用立て僕使と成とも水底と掘り求れも掘り得ず
 志は道村人と交らう農丈十餘人傭ひ綾紙を焼して
 索もとめさせられ逆さすふ浅と誂ふ拾ひ得て後摘あつりれ

之方を被かぶつての養吏どもに錢一貫又とと取らせり
 軍々人皆難して十文を錢をうりて一貫を失ふお利
 大損なりといひれば後摘あつりてされとて御意よら
 悪わるい系考りて世の費と知れも民と志むの人のさへ
 錢と只今を意に探ひ得ずハ断り申されとて永く困窮
 一貫又の錢のついでも人乃ち通用して且其民と振たら
 とも一貫又を求め得んたう百十錢といふも秋これ
 豊ゆたかへ十文の淺きは失ふ事とて思ふなれといは皆
 感服を承りて安ふべき底らん得る古きを賢の道も賢の

此の都人糶^{ウツ}のよふ能^ス似^ス係^スむ^ル都の國^{ウツ}糶^{ウツ}のよふ君
 水^{ミヅ}を好^スま^レれ^ル庭の池^ニぬ^ル免^レ雁^ノ麩^ヲ多^ク高^ハい^レれ^ル係^ス
 有^ル目^ノ人^ハ會^セら^レく^ニ免^レ雁^ノ解^レ糶^トす^べし^要米^ヲと^嚙せ^し
 る^にれ^のと^功進^ハは^タク^糶と^蓄入^テ嚙^セれ^ルも^ハ君^乃
 倉^ニ糶^ヲと^成り^米と^糶と^取易^ク嚙^す係^すに^臣の方^も
 糶^乏く^ぬれ^君の方^{より}或^石の^米と^嚙て^成り^一石^乃
 糶^と嚙^てる^ふか^をぬ^きは^有目^の人^ノく^こも^是ハ^蓄成^る
 の^かと^嚙ら^ひち^や水^鳥の^公を^米と^嚙せ^てと^とや^多は^糶
 糶^のい^よく^ハ汝^等が^所あ^るす^の百姓^も交^入入^糶

曝^{ハク}し^てぬ^るお^のと^漬く^苦勞^クて^耕作^ス係^スを^豈を^歎の^めず^人
 粟^米少^ク乃^上食^服と^いふ^んと^是と^以て^米の^花と^すん^ハ汝^等ハ
 小^利と^知て^大計^と知^らず^係之^周の^代々^は糶^貯中^ハ海^とい^ふ
 こと^{あり}て^糶物^と相^かつ^の肉^ハ炒^入ま^くに^糶物^と一^返
 一^海も^ても^勿論^ハい^はれ^ぬあ^るの^肉あ^らく^糶倉^の米^と
 二^石に^取て^糶一^石と^易く^もそ^二石^の米^費る^ハ何^れす^の
 米^ハ國^中乃^民が^ある^て免^レ亦^ハ都^の國^ハ糶^と喰^て都^の國^の米^と
 と^は喰^す米^ハ家^倉の^肉も^民も^ある^も同^くい^はれ^ると^云れ^るま^ハ
 都^の國^中此^民これ^とす^て皆^其糶^の蓄^と君^の蓄^と一^糶と^いふ^も

知りては難びしと之を別を底在處が言ふ能合しりみく
 儉約の湖^{ウミ}のの^{ウミ}得しと軒^{ウミ}要られ凡儉約向果と小^{ウミ}滑川
 後と^{ウミ}底^{ウミ}たき水^{ウミ}ふ米と^{ウミ}味^{ウミ}す^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}の^{ウミ}を^{ウミ}

とも^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}^{ウミ}

簡中して廉しらくて簡異儉約をむとてそのれれもさう薄
 あらう時人小常して礼義と失ひ傲嬌をさうのあふものれ
 其縁位おむの禮義とは廉隅とたうけい音素よりふ
 成誠びといふふよとて下の衣服と被す候と偏下とい
 下とて上と云ふ衣服とまふ候と偏上といひ偏下い亂乃
 申分りて古人の言も是れ之齊の晏平仲がて儉約な候
 人こそ先祖とふに少し付の器も充ふ候と信出はま候
 洗濯する候衣冠とまふとる表と二十年服せしれふも
 淨せしめて質を更なれもさうと云ふ若の雅俗とのさうり

此とて許江中も儉約もさう音素のうと成誠の許いさう
 ませぬ又周書亦位六期せずと驕淫びせと後茶儉れ
 徳中とゆふ候と載せなれらくてせしは信あるへ切か
 らうとて人れは忠孝とて何のりも自由なまは長ん薄を候
 ら思ひのさもたつて人小謙りおふ候乃其もとのれれと謙
 人と茶飲りおれ儉約すれと実にお徳もまづその肉を
 得てて卯親のみ茶儉り候りおふ候たもよはす
 うとて是を儉とまふも茶儉家とて音素親とておふ人やうり
 夏の鳥玉れ朝夕の飲食と薄とせと食せられて又徳のさう

衣を供養せぬれば生衣の衣履とは悪くせしむれば禮服は失
 うことなせしむるは在せしむる宮室とは年々作らば田畑水
 りふ財用をまゝして無他せしむるを弄術もこれ汝の儉を
 國はとも自らは儉をすこれ汝を賢く稱せしむるも高の
 同也ともいふことのみ之は汝の中は儉約の事なり
 と候しや一兵家事といふ朝の膳は膏粱其味河を食
 又此の味は野菜の味を汝供する年々とまゝとて失
 細く衣履とせしむるは汝の禮服は然と醜く腐る
 物とせしむるは汝は財を費して衣履は汝をて民の汝

重く田畑水道乃築他とは忽として財用とあらずと務む
 庶民を困窮とも恤み之備の積もりも缺いては儉約能ふ
 の風を傳へしむるは汝の賢の皆無く儉約ありしむるは
 儉約の事なり汝の事なりとていふは汝の事なりと考ふを
 ともて汝は亦一兵家事といふは汝の事なりと考ふを
 上と損して下を益すは上下の益ありて汝損して下を益す
 上下を損するは汝の損を周易の損益の卦は道理汝は
 能く考へての一兵家事なり汝の損して下を益すは世の
 益ありて下を益すは汝の損して下を益すは世の益あり

植と成との人何してや大なる國家久政事とす。係と條條と又丸の
 備とてやと人氏と救んまふ。儉約と廉潔と務めぬ。八海と仁
 の乃とあれど。甲子に類りく。鉄細分と政道ある時を下と居。
 人氏をたごう。係まごころのみ思ひせん。和同せ。あ。整と。これ
 檀威と畏。そののみ少くむのゆゑに忠。よ。ば。月。ふ。く。係。善。用。の
 多くも。多。儉約乃儉約。お。け。係。を。の。ゆ。え。と。大。國。と。作。る。
 小解キョリと。善。ふ。や。と。老。ま。る。之。ゆ。ゆ。も。係。を。理。す。と。小。さ。な。事。
 考。ま。た。た。け。の。植。梅。と。能。く。と。海。里。と。を。中。へ。く。熱。と。活。ぶ。に
 ば。之。ゆ。え。や。ま。ま。ず。や。と。よ。ば。く。著。と。揺。も。時。必。を。内。を。れ。

破して。膝。膝。ち。か。と。き。や。く。人。氏。と。活。家。の。何。と。め。植。梅。も。法。度。を
 削。く。を。法。度。に。訓。し。成。治。さ。す。年。と。月。毎。に。類。り。身。政。令。の。時。と
 却。て。人。氏。の。風。俗。僻。と。そ。ん。和。同。せ。係。を。む。う。因。の。或。は。此。殿。封。と
 伝。伝。せ。せ。け。く。時。志。言。封。は。信。不。信。の。事。も。先。信。乃。乃。ん。之。家。ハ
 云。れ。れ。れ。れ。れ。も。これ。一。心。守。り。との。ゆ。ゆ。く。何。れ。大。勢。と。も。も。ん
 和。同。せ。れ。は。粧。む。は。た。も。と。結。と。天。下。と。共。ひ。三。十。の。係。と。も。を
 人。和。同。と。力。と。共。ま。ま。さ。武。を。下。成。得。其。ゆ。く。之。棟。正。成。と。言
 諒。乃。激。勢。と。て。千。里。毎。坂。を。難。と。敷。其。其。其。勢。と。難。と。也。也。也。
 士。卒。の。之。能。和。同。と。係。南。り。武。田。勝。頼。深。田。秀。家。等。の。大。國。と。看。つ

分して一日乃内を滅せし其和國を失ひて依て之凡兵敵を
 三軍力と因うと下を成一するを以て積敗の糾安とするゆを
 ち其世を改めんと上下の心を和國するを成る一積敗の首領の
 以てや古の王良造父とて人の心を少不離るる馬のよを
 されし和せざるを以てを路を改むる能す股の湯之周乃
 武をると古今此明君ありあせられし親附せざるを以て
 を平伐致さるる能す孔子の教も馬と御する者有御勸
 とて一變策と齊くその力を増し馬の心と和せざるは多
 揚すとして一變一變策と考まると千里の道も極む能はるる。

者も其徳法と一なりや千百里を以て以て民の力を齊し
 民の心と和安を成る難いと再とすると民を以て刑罰を
 用ゆに及ずると天下治るる又顔子の論せし如くこの
 心と和せしと馬の力と齊せんす時此を以てを矣遠くす
 ち人々の心と和同せずと人々の力と極らんす時その民
 必怒り板くまわり有聖明の君民の力と極りしを以て志の
 乃より馬の力と齊しことをせざるこれらも下より上への格感
 畏るるゆを以てそのなれをまると人々中を怒りし馬あり
 何りと七とより難きを以てさうも必ずし川を驍がとありて長

政道下重をれも心中に怨う積り時終まれば歎と歎の中
 らも子をち一少く然れども其の人の人々怒むべきや怒か
 海といふは是上を家の持威りてとあやに成りて怨は
 人の子なる者家愛を家愛する人父母は亦人の子なりて其の
 愛を離れん其愛を恨とせしむ父母より志成命せせり時ハ
 子たるもの當みかくを命離りてを其妻とは離れずまき
 せれども又を父母を汝は命を恨とせしむを其妻とは恨む
 命れと命すはも子の子れん父母の命を恨むを其妻とは
 命すも命すはも子の子れん父母の命を恨むを其妻とは

子も此理も人々の好む積り利得るものなりは利得ること成
 林也あらう時々を命命すは罪を成りてと思れり勢
 を政令を信ふべれも心中其命令を怨むを利得る事小
 こととせむべきこととせられぬ其妻も民にこれ邦の本を固ければ國
 寧し予天下此を又思婦と禮に一とく予情一人を愛り
 怨愛明あらんを見ふはこれ為るといふは夏の馬也漢朝と
 確はたふも家を造りて其地とて築すて村本ののみ多く構へ
 て北表大風を人に違ふ時はやとてみはんとては頼と頼
 へともて臣百姓國を基にするは思又思婦の恨む者とも

且是行市代捨てて六河も唯を情と怒りと怒りてあなたありと
諭へはしき家の内へも婦人女中情を笑ひき小袖掃の好み
る子田子の情を武藝を好み有り学問を海を好みあり武を遊藝を
好むもゆゑそ一振で次中児の情甘き華を笑ひて歌よの抱へ好ふ
すもふ奴婢乃情を疾く痛く朝は達く怒りも巨の怒を厭ひまの
をのまきと好むもふお抱ひにま主人たる者切とす儉約簡思好
ふ情ども怒りお婦人女子の綿布は衣裳のまき田子共ふ費用
ありとて熱漸増おも思ふまにせま小児の憂傷達摩の頼ごと
河へお奴婢の情を向ふ少け費もせまといと細くを思ひしき

と情を暇なく働せんとすあなた主人乃情感ひて者くひい付ひし事子
奴婢もに板て違ふべき人河へおれども主人は和國共して切て怒り
しの後をて控まへてまふあなた損まへおまをのまれとて具事子
奴婢乃致すあなたにほせて儉約簡略のたたりて家の備と共ふ
ありて所を唯を情を通し候とてほせまあなたを向て切くすま主人を此
情感ひて押休めま情を情と怒りて有まき魚の決をいぬぬの
婦人女子もて八年生れあなたをいぬぬを断と抱とてまき三月を
又おれおれすあなたをいぬぬを断と抱とてまき三月を
まきまきほかにまきまき世間男子は情をいぬぬを断と抱とてまき三月を

とは様々も文武の道も有きけりけはそ入用と惜まふ所も小児去
入世の小児と云ふて都けぬ所と云ふぬほどに食料玩弄の物と標と
あし奴隷とははと流し草と云ふ所の怒と一用なき時入世の体と
格別と働きて時をいへるも困りても療養と云ふてせ就てと云ふたは
こそ才も常ふは儀云う飲食衣服と云ふ首略してはく貴い所
うとせせ多風と云ふ夜と痛めて世の勤を怠らす其家業と云うて
そ家全振育と云ふ我より令せらる所の厭ふなりと云ふは
あはちのつゝ家内の人和同一と儉約簡略と云ふて一是不閑
と治家人乃て士民の心と和同と云ふもいふと指てと考りゆべきや

何んまむと云ふ又教と云ふを素山と摩庵と云ふを蔭蔽と云ふ
何れか之と文字の書ありてとく解とに教を明と改めりて人
に安んせよ又教と云ふは解とあり公奥と云ふも如て表ふゆと改めり
民安んせと孔子の語も何れと知とすも明衆と改めりて
安んけ人情も怒とすも唯君長久威徳のいふと抑伏と云ふ
人民安んせとてまじに有るも懐ふ所と云ふもとらふ懐とすに當ふ
強てのいふとく時と云ふの力を失ひ常ふ強と云ふとく時と云ふの形と云ふは
飯と周の文と成と云ふ改めりて一飯は強り一飯は強と云ふとく孔子の言
向きはそく強と云ふのや改めるとはす向と云ふと改め周書と勢と云ふ

感なくして分く法は依りて勸めよるれは予の徳をばらそそよ士民の
 徳をばらそよに徳捨をばらそよ河平たぐ人情の常と怒りと政との
 縁殺とこれのづこ士民の人心同一と上下ともに善ふ然るこふは
 乃を賢まら政法と學びて一とよそ戚位もよふは時不條とて具
 勸老しとてつん身分れまよても昔より生れけりて富貴は徳有。
 人まより人情の怒れとことの中して齊の景公の之日しよてそ者
 ぬまよる時、魏白の妻乃淫分び以老けて父母もふ雪の階にを
 うぬいせまよとてよれ、墨子も論じて初て人乃をそけられ
 徳の靈にの極老の時よまとなしくと地をを穿けり宛春と

之系伝ふ傳らきて初て家此後分すうに人民を海の怒れとてを
 知もまよら長けの孔子向う小寡人深宮の内まられ婦人をもに
 成長してまよ世の中し長もまよも都は初もつ方もよるか懼れ怒を
 危もまよまれは故のなまよらよらよ海にまよれ孔子を君の
 身も辱て一も皆怒あまよるもむを解けり如く後の世そまよれ
 ちまよ録位もあまよる人とか人情の怒れとことまよよくかの家
 氏政も農人乃畑より妻と別て背負てゆると見て予妻飯を飯と
 妻と取て今も妻飯と飲れ喰せよとまよりやく今日か一妻のと
 飯ふらまよるまよの思ふ飯分る思ひ飯まよるも必まよる賢人の人

是を以て人民の勞苦あるの多きも亦せざるべし然れども
 身中の位録ある下位を自ら卑賤の勞苦艱難と爲す
 されば其人民の業と爲せらるるに流るるや其のこの水滸
 似るるも多しして庶民の情を以て其のゆゑも何んぞと爲て商人
 商人の情ありて賣買利國のふに於ては士君子よりも賢く農人
 と農人の情ありて耕稼生植の事な於ては亦士君子よりも賢く
 とのなれども君長よりよく諸士のためも百姓のためも皆
 耕稼賣買のふきを微細を以て世にありても亦人民の情を以て
 りのゆゑを得失利害の言をわき上下の全お遠も亦時を常ふ

世の中程なり小人の人心固きを以て周書に民情大不和云々といふ
 傳下ありて泄てはのんことをせりりて民の好惡の情ありて是
 を以てのなれども其好む所を順ふべきも何んぞ又其惡む所を
 逐ふべきにもある能く情を察し之を以て得んば其のふか
 程きとのなれども知らずして君長を以て其誠のんことをして怒り
 能く其を撫てその痛きを以て之を流して去れしむる

公私第に

有る人民の情を察し其情を以て之を以て其のふかあるを以て察し
 人を以て之を以て其の情を以て私あるを以て情を察し其

周書云とて私滅せは氏と見え懐くはりて凡そ國を
治家入しうかもの心と用ひず親疎貴賤の隔と其良負の
乃そ私よ言と善く悪とあふんこの乃とて敵はそれ自
人相と察し事と指れども人の性として君子賢人をも者も私を
なきんやゆかあふれども君子賢人をも公の道とて私を
滅さんす家のむむ漢の身と論とゆふ少も私をさへに
或人豈と向て心をとも私のりやうは身と論とゆふ首人
千里馬と賜り老あり我もそは女をとも其後三公の官と
人と選と采り。の河原毎は家人の馬と賜りしと與ひて

まゝに徳を世れは徳よき人とは用ひまゝに又我兄の子は徳を
たし我一夜は十夜を待て挨拶とす。なり恩と公あく婦人
子乃病とふ時。の家をば。私解と見さる。か。徳教あくハ
眠れれは。母のやき私か。と謂ふ。次ハ。人情をさふ
つとものなれは親と。とは親む我は仲と。とは跡み。室の今ハ
ふも。貧賤の人。ふをさ。ハ。凡そ人。か。て。大。好。て。と。悪
と知り。悪。と。甚。文。と。知。老。又。下。解。と。い。ふ。家。や。我。親。と。好。と
所の人。と。悪。は。あり。とも。是。と。悪。む。と。成。却。も。家。悪。む。不。の人。か。と
美。と。あり。ても。是。と。好。む。家。と。知。さ。凡。人。ハ。公。れ。も。不。國。家。と

情なきは私を源ありて人民情不契故也
文は私を愛懐しん系忠義人申候伯と云ふ依彼人あり
又之病ありし時を去吏是を曰く愛懐我を犯す我を以て
私と云ふに體を以てせしは我は若く共居てある身す
思ひせず御れり我を懐と謂ふは必ずしも是れ源と云ふ
申候伯我欲す源のゆゑ私を親と見たり先我樂む所のゆゑ
先さうてこそを以て我の者と云ふ居たり下見れば馬も
御れも私を道と失ふゆゑ必ず追殺せしと云ふ事
許して昂貴懐と進めて爵位を仰ぐ申候伯と退きて追殺せし

は楚のあやま實不好してを無と知り怒るとも愛と知人か
公とて私と感もといふこと文君子は己の因會ても與せず己
異なりとも非とせず孔子は故も身也れと記すも我と愛
とすは別位を私と愛とをさけし別戚己と同と若く喜ぶこと
異の家者と怒ふれん乃大情之と尹文子に云はく己と同
して己の私と愛するとは愛といふは己の私己の私云ふて
己の私と非とも老は婦く思ひせずは君子賢人の心も私
なり此人情なり志は下と上たふは悦と直は私に福は
怒るとは私を福と謂ふことおろしと云ふ人云ふかして怒

事ふくは好むまじきとされども角にして上たる人の悦ぶ道へま
 転むはたゞ老を常分ればを悔むく小流してよらるる金流は驕傲
 好むは少く憂慮は美の地を以て其悦ぶ道へとををみよた人
 儉約質素と好むは又省略減損の事とて悦ぶ道へと改考唯
 其あくく之身出世と頼ひて昔は希想つげ河順の行ひと
 人氏の困窮とも悔む可哀れなりて庶民と擾亂平流との
 此れは歴史乃傳もよく見ゆ之が河順の事多く同的を君長
 乃に愛の意もよく通せず庶民乃に窮苦の情もよき道せず下
 路を蔽ひて流す國家の衰微と成りければよたる己角

すは者のみ更しくこゝに書すは老と捨るは切なりを私めして其の
 命令も亦所乃乎も必偏頗の沙汰なりて人氏の情ぶ歎ふ家との
 向家との事は一向も其の心を抑へ難流質賤の隔分極
 人氏其情と起りて何れも心とて蔽ひて去るべきはと私く小身
 者乃家内と活家かもしん流何人きりて妻子主人を親して
 愛とて奴婢を主人に謀くして賤むは是人情は常々は向れは
 して妻妾はれよ小く非分も有りて是も用ひ奴婢乃を小くハ
 是れも有りて捨て用ひは流しぬるを私かて家の事
 是れも有りて奴婢乃言ひても是れも用ひ非分も有りては妻子は

言めしも捨て利ひずきくまらざる愛憎乃私を悪く書ふ奴婢
 乃隔分くいそ是非と云はたつゝ家の益と云ふ之周易を
 同人卦の初九乃又祥よ人同を同に於て也咎なくと我家の物族
 に偏頗す家の利く門とわく度く世の人と同くす此分と云ひて
 過咎分と云ひ六二の又祥よ人同くも字に於ても咎なくと己が
 親族の者のみ偏頗も所ありて人同くすは私分と云ひて
 歎否乃道分りていぞ抑れんく之民の情も斟酌せしめても
 私分を平乃人との事と得る必國家の事足らうて吾れも分り
 む一鄭の圃に脚授乃書生も執政の人分吾言と評議をれ

然明してを夫是とすて其字同所と毀んといふれ子産これ其也
 曰くいと毀つとせん夫々輯々御授遊學と執政の吾言と
 評議せばも吾も所のいれれといひを悪くす分の中ハ家
 をも改めはれも我も評議もまことといて毀つて成せんといひ
 實ふも乃たわくこと何りきこれ抑て下民の中もとと上たものもと
 評議も家老等へといれば是と咎れ罪して感して抑てせよ抑
 分を周を屬まらんとあやき暴虐乃人のも所わして賢明の分
 す分の中ハあや賢明の人を皆鄭れ子産のやく庶民の中ハあや
 評議も家老等も吾も民乃抄法をもを斟酌して政事の秘決とす

此世の道といふを分れぬ孔子の語も上とて民の言と酌は別
 下たとの上乃程を酌と云ふやく載と上とて民の言と酌は別
 則わりの上の命と犯せとの多し又法範を偏なく頗なくまは義
 適く好むとすし何のゆゑに道と連へ懲と分すのあはなくまは
 ちとてあれば君長を何人も好むとすも偏頗なくす
 先王乃道を従ひては律のたつてく民の情を察す事なり

法制第又

故を宗を官入り事と議をに制とてその政則違ふは何れ
 いし乃明君賢臣天下國家を治るを治るを政道と法制と
 能く字を治とては後世官乃列入りを官と條とを政事
 評議を條とては私意を用ひぬかして字を治とて古を法制とい
 宗載はも條と何れも條とて是載も條と何れも條と何れも條と
 いへやく規矩方圓と云ふの義にていぬは巧目利足の人も
 同はをりとのもては拍と規矩の方角と云ふはをりとのも
 二箇乃巧分者能規矩と用ひては巧とをせざる規矩を捨て
 方角と云ふはをりとのもては拍と規矩の方角と云ふはをりとのも

古を宗を官入り事と議をに制とてその政則違ふは何れ
 いし乃明君賢臣天下國家を治るを治るを政道と法制と
 能く字を治とては後世官乃列入りを官と條とを政事
 評議を條とては私意を用ひぬかして字を治とて古を法制とい
 宗載はも條と何れも條とて是載も條と何れも條と何れも條と
 いへやく規矩方圓と云ふの義にていぬは巧目利足の人も
 同はをりとのもては拍と規矩の方角と云ふはをりとのも
 二箇乃巧分者能規矩と用ひては巧とをせざる規矩を捨て
 方角と云ふはをりとのもては拍と規矩の方角と云ふはをりとのも

りかして法制と廢て治氣と云ふ事有らば明智なるを
 人かして古の法制は昔の治氣とす所は規矩と捨て方壹
 正も同く之を治氣と云ふ所は古の法制といふも一途は河を
 世に此感養をせよとて法制は無きものあり廢るものあり
 周書は道は升降あり政治は依て革むとありて人倫の是と遊
 升て感養の時と退き際て養ふ所時とあははき道の升降は
 随ひて世乃風俗は依て政治を意(養むべき)ものなる也に
 洪範は正直圖を来克乃三徳といふありて世の風俗平康の
 時と正直の政ありて治め世の風俗強くして唯は治の時と剛の政

以て治を燦(くわん)として友(とも)の時(とき)柔(なや)の政(せい)として治(ち)と見(み)ふれば
 其(その)之(これ)之(これ)の政(せい)法(ほう)と皆(みな)古(いにしへ)の明(あき)君(きみ)賢(けん)臣(しん)の治(ち)を以(も)つて
 之(これ)を以(も)つて改(か)む(む)ことありてむ、此(こゝ)明(あき)君(きみ)の遺(い)訓(くん)なりあはく
 研(けん)之(これ)は考(こう)乃(のみ)寸(すん)法(ほう)考(こう)之(これ)は六(む)尺(せき)と定(さ)りたる所(ところ)何(なに)世(よ)の所(ところ)痛(いた)む
 合(あ)て疎(そ)るべきと小(こ)治(ち)りとも今(いま)考(こう)ふ核(かく)をたふ能(よ)九(く)尺(せき)地(ち)きは十(じゆ)五(ご)考(こう)
 乃(のみ)所(ところ)痛(いた)む六(む)考(こう)を以(も)つて中(ちゆう)政(せい)て治(ち)りしむかふ少(すく)し治(ち)せしといふ
 何(なに)とや便利(べんり)の根(ね)より由(よし)れども唯(ただ)十(じゆ)五(ご)考(こう)を以(も)つて一(いつ)問(もん)の考(こう)を以(も)つ
 問(もん)は合(あ)ふ所(ところ)に在(あ)らば唯(ただ)明(あき)君(きみ)賢(けん)臣(しん)の制(せい)切(き)り政治(せい)法(ほう)は何(なに)所(ところ)の由(よし)も
 合(あ)ふ所(ところ)なくして人(ひと)の爲(ため)も治(ち)りしむこと古(いにしへ)の法(ほう)は考(こう)ふこと己(おのれ)を以(も)つ

として使利するを作んとす所多くは皆事考に似たり
 其功彼亦も合ふ所ありて是れ人々の功なりとす久し
 少くして使利するもあつて為す所も思ひ難く懐き
 一は使利なるも疑ひくもの多し者もれば是れ舊
 務より財困を損失少く即ち人民の心も強動すは
 轉て安國治
 せやく利を十倍たりて所も業を易くす切の百倍
 妻せされとのあははす所を括り損益中より
 舊國治の備くありて所も是れ國を長有する所
 文中著る旧費まゝは是れ人々の必設作んとす

何とて言ふとくは是れ一は捕成を以て中北功
 泉乃三州乃大守に封せらる時群臣を命じて曰く予
 之を以て國守の民を撫育す所とせしめたり
 と求むるも其の所今より以て存存の者なり
 昔も一上も是れ昔も一上も是れ新法とて
 何れも其のやまに人乃あるを以て人々
 人々の心も思ひ難く懐き
 自らの心も思ひ難く懐き
 昔も一上も是れ昔も一上も是れ新法とて

楠氏乃乃得^レ效^レひ^レは^レた^レの^レつ^レく^レれ^レん^レく^レ民^レ乃^レ和^レ同^レと^レん^レこ^レす^レ
 ち^レん^レく^レ商^レ書^レ君^レ子^レの^レ辨^レ言^レを^レ用^レひ^レて^レ舊^レ政^レを^レ改^レむ^レる^レに^レ
 論^レし^レ周^レ書^レに^レ典^レ常^レと^レ以^レて^レ作^レり^レ利^レを^レ以^レて^レ具^レ官^レを^レ改^レむ^レる^レに^レ
 被^レめ^レ論^レ語^レを^レ利^レ乃^レ邦^レ家^レと^レ廢^レむ^レ者^レと^レ惡^レむ^レと^レ何^レり^レと^レを^レ角^レ辨^レ言^レの^レ
 ち^レと^レ利^レの^レ象^レ者^レ乃^レい^レふ^レハ^レハ^レち^レも^レと^レて^レて^レ思^レふ^レも^レの^レの^レち^レも^レ
 古^レく^レり^レ君^レ長^レた^レ人^レの^レ辨^レ言^レ利^レの^レ者^レと^レ感^レず^レれ^レま^レい^レと^レを^レ用^レひ^レ
 櫻^レは^レ舊^レ政^レ舊^レ法^レと^レ改^レめ^レて^レ民^レを^レ怨^レむ^レと^レ招^レき^レ終^レふ^レの^レ敗^レれ^レん^レと^レ
 そ^レを^レ免^レれ^レし^レう^レす^レ詩^レ經^レ乃^レ變^レ小^レ雅^レ大^レ雅^レの^レ内^レを^レま^レく^レさ^レふ^レと^レ代^レ
 利^レと^レ詩^レと^レ秦^レ漢^レと^レ此^レ世^レ乃^レ表^レも^レ多^レく^レは^レ利^レの^レ辨^レ言^レの^レ者^レと^レり

事^レ記^レし^レ又^レも^レ古^レの^レ多^レ人^レ合^レせ^レる^レ法^レを^レ用^レひ^レて^レ君^レ長^レの^レ記^レ
 ろ^レう^レあ^レて^レ公^レに^レさ^レふ^レと^レて^レ妻^レと^レ號^レを^レ下^レし^レて^レも^レ民^レ乃^レん^レと^レく^レ繁^レ
 さ^レふ^レ也^レと^レい^レふ^レこ^レは^レ礎^レを^レ作^レて^レお^レふ^レま^レに^レ以^レり^レれ^レば^レ亦^レ時^レ又^レ亦^レ
 辨^レ言^レを^レ變^レえ^レむ^レも^レ人^レと^レあ^レれ^レば^レい^レふ^レく^レ民^レの^レ心^レを^レ疑^レひ^レて^レ切^レり^レ
 さ^レふ^レと^レい^レふ^レは^レ農^レの^レ膏^レ賈^レも^レに^レ後^レや^レ也^レと^レ廻^レして^レ後^レを^レと^レ
 を^レ私^レ乃^レ利^レ得^レと^レ失^レふ^レま^レを^レ用^レ心^レの^レみ^レも^レあ^レれば^レ下^レり^レも^レは^レさ^レし^レか^レ
 靜^レら^レん^レも^レあ^レる^レに^レ夜^レふ^レ周^レ書^レ亦^レ雨^レの^レお^レも^レと^レ怪^レし^レ念^レ出^レま^レは^レさ^レす^レ
 以^レひ^レこれ^レ及^レこ^レは^レと^レ何^レり^レと^レ君^レ長^レを^レ人^レ私^レ乃^レを^レ抑^レぐ^レい^レの^レ道^レと^レ
 して^レ人^レ民^レの^レ心^レと^レ和^レ同^レせ^レん^レ思^レふ^レも^レ古^レの^レ多^レく^レも^レ外^レ能^レ法^レ利^レと

定め盡きしを令す所也と信して一度令を下せしむるは先と
先と及一處を依りて人民の心を迷わす一處に法制を
從はむむべしと申す

賞罰第六

故に人民法制に従ふ所を賞罰はりて賞罰を道徳に
て法制を以て賞罰を理を以て法制に従ふ所の由り
て其に其賞罰といふ賞多しと言ふ初もその罰はりて懲り
その所は古今に常法分れず其れもその理を以て法を以て成
賞して言ふ初も言ひ得ても懲り懲りて度書を過と書きた

其法を以て故と刑して少きを以て重く罪を疑ひて其刑を功
疑ひて其重きを以て又厚懲りて其を以て戒めしむるは
小罪のりも過あるは初は自ら不忠とすに種と違ひて
せしめられは主罪ふかりも殺す所は又罪あるも終成
とせしめられは過てせしめられは主罪と考へてその罪の
由を極めは是刑殺すも及ぶや次はりて去はる火の如く
人に乃家名取福とあり疑ひも過なりとせん所を初めとせしめて
治へた多しそ火を治へ者も重き火を治へし罪はひたす
あまの人の如く疑ひも初めもてせしめ又其人の世も

ちんとりて乃大いれはそ大とせし人とは所由と深しそ宥免
 人きこやくいれ家罪咎めても皆けん済として或父子君臣身
 夫婦の情乃重きより寧ろてせし罪分は是と宥そ之論の
 情を重きとせざる能く然らざれば殺すべし次も重き獄に
 截すも家人を以て情ひとせざるは又そ無きを罪を家人も罪の
 情重疑りとも情なきとは流罪よりんかちんとは是放すは放
 けし思ひ人の所構ん人とおしそ言ふと責すに當るは輕重疑
 するなきとは白浪拾投有せんと思ひ人の或拾投せ或拾投
 思ひ人の拾投有せざるはつらつらとせざる者對そ人情と能

ちんと考入合せて乃小重きとにしてそ人済々周書乃呂刑の篇
 季子く河象と身て知さる又孔子の教も刑と制と依ふ必至淨節
 父子の情も亦君臣の義とてこれと格り思惟して情重の意
 深し情て淺深乃量と測りてつらと別ら罪漸く情えは疑ひ
 殺も公言きに疑ひ疑りも獄とは然る衆人とそ評議し衆人
 疑ふとはれと殺すとの多し捕正成乃所領せ河内平周郡少
 前馬と擡り者つらと使人執りたりれば極成を迫議の民
 召てそと擡り由成回りにを隣の民は皆んそ公者一人の老母
 有りて事以孝老とせせしに須臾の老母病ふ也醫治せ深治成

清くは若師乃つて茶を石と贈りては座居せんとするも茶を
 贈らん約儀して茶と帳せし先はふ少く瘵の重た茶はの若師より
 約儀の茶と清くは男およりを多し若し茶を石乃茶は
 僕らん圍り居る若師ま茶と與つれば母乃病の瘵を
 勸まを親を友ふいとせん講りまは茶友一石の茶と助りゆえ
 女何そ一石と若師を送りければ若師は石を贈りければ約儀
 遠ふといひて薬を何ふ茶は男を迷致と母の病乃瘵を
 とを怨み人も暗くやうて止むと講りて近村を去りて
 據りてまを茶の市門にて茶三石を賣りて一石と若師
 清くは若師乃つて茶を石と贈りては座居せんとするも茶を
 贈らん約儀して茶と帳せし先はふ少く瘵の重た茶はの若師より
 約儀の茶と清くは男およりを多し若し茶を石乃茶は
 僕らん圍り居る若師ま茶と與つれば母乃病の瘵を
 勸まを親を友ふいとせん講りまは茶友一石の茶と助りゆえ
 女何そ一石と若師を送りければ若師は石を贈りければ約儀
 遠ふといひて薬を何ふ茶は男を迷致と母の病乃瘵を
 とを怨み人も暗くやうて止むと講りて近村を去りて
 據りてまを茶の市門にて茶三石を賣りて一石と若師

清くは若師乃つて茶を石と贈りては座居せんとするも茶を
 贈らん約儀して茶と帳せし先はふ少く瘵の重た茶はの若師より
 約儀の茶と清くは男およりを多し若し茶を石乃茶は
 僕らん圍り居る若師ま茶と與つれば母乃病の瘵を
 勸まを親を友ふいとせん講りまは茶友一石の茶と助りゆえ
 女何そ一石と若師を送りければ若師は石を贈りければ約儀
 遠ふといひて薬を何ふ茶は男を迷致と母の病乃瘵を
 とを怨み人も暗くやうて止むと講りて近村を去りて
 據りてまを茶の市門にて茶三石を賣りて一石と若師
 清くは若師乃つて茶を石と贈りては座居せんとするも茶を
 贈らん約儀して茶と帳せし先はふ少く瘵の重た茶はの若師より
 約儀の茶と清くは男およりを多し若し茶を石乃茶は
 僕らん圍り居る若師ま茶と與つれば母乃病の瘵を
 勸まを親を友ふいとせん講りまは茶友一石の茶と助りゆえ
 女何そ一石と若師を送りければ若師は石を贈りければ約儀
 遠ふといひて薬を何ふ茶は男を迷致と母の病乃瘵を
 とを怨み人も暗くやうて止むと講りて近村を去りて
 據りてまを茶の市門にて茶三石を賣りて一石と若師

夜よとまふ人乃好む所創まへ民を風俗とす家をのめて周書ふ
 爾是風下氏これ州といひ孔子も君子は徳凡小人徳を棄て
 若くは風と尚れを必偃せしもの多し諸侯十五國凡乃丘凡を棄
 皆そよとまむ好む所の下も好みてそを國に風俗となれしゆ身そ
 重き之唐乃言ふとて君胡人乃鞠と稱すの戲と能とそゆれ
 若て一皮をと執りまされはそを海く鞠と稱すの多きを
 多し高宗これを知りて是候あはれこれと好むと思へば
 帝はれは海と海容易なる事とそ鞠と稱す捨捨たりとなき
 何ゆも皆汝のやぐよき所人乃好む所とそ下に流りて汝を

ありて孔子は語よよまの物と好むは節必これよりをよまの所を
 故よよ乃好むまふ所を性まふ所とて汝是凡の表ゆりとのま
 確きは人乃好むと親よまの酒と好むはまそはたのくは飲と物
 多しまふ人そは雷嫌ひなれば家内のおもあづす實を汝と
 物とておまふと其親よりよまを戒めて我吾も必酒と飲取れ
 といひまふ人より家内のおも合つてお嫌ひなれも汝もかかむと
 魯も多し多れれゆまも是を令す所不その好む所と遠くおられ
 偏しと理しとよとて偏使入くと好むは下ハハく河順の風
 なるよとて忠信の人と好むは下もはらめて正直の風なるよと

かの君長をへんらり下る論彼河傾のふとけき旅と合し
 なりとも終ふ己んも傾ひて河へ彼ふとけき者好してこれと
 をつけ又下る忠信直ま風乃けりて旅と合し下りてそふ
 己は遂ひて忠信とてそふとけき者好してこれとそふけりて
 下る論彼ふとけき者好して忠信のふとけき者合しそふとけき者
 の好意とてわふふ旅のふとけき者好してこれとそふけりて
 ちかすに好意とてそふとけき者好してこれとそふけりて
 己んも遂ふとも忠正乃とてそふとけき者好してこれとそふけりて
 唯ふ所へ河傾のふとけき者好してこれとそふけりて用ひず女のふと

好意とて中して下るふとけき者好してこれとそふけりて
 所と知りてそふ法則とてそふとけき者好してこれとそふけりて
 されどもそふ我んも傾ひて遂ふとの向ふそふ好意乃載ふるあふ
 とのふれば高き言はのふ遂ふとて河へは必これと道ふれあふ
 云は必志は從ふとてあふは必これと道ふれあふとてわりて甘美
 抽入毒なるべく苦き抽の葉にちかすそふとて思ひ先ありし
 我んも傾ひて遂ふはそふとて道ふとてそふとて其理とそふとて忠信
 仁義乃道と合しそふとて好意乃そふとて合ふとてそふとて好意の
 己んも遂ふとのふれ又そふ好意とてそふとてそふとてそふとて

一可なりと云れども固く身とては非ざるなりと云ふに非ざる也と云ふを
 惡し雅樂之中とて非ざるを鄭琴とて淨瑠璃之味線のやも流るる
 非ざるれども耳よりて非鄭琴乃面白と云ふはに雅樂のやも流るる
 趣に利口なる者の辨は非なり非非乃理なりむすわれも是と利ひて
 之國は此常法と知ると惡し他人乃を非なり人乃を非ひて之國
 玉室を非はるるに是と一而ての忠信の徳有る人と怪と惡
 少少之に非ざるも古よりを非ふる者も多し其のあふさむかた向
 之とて是忠信仁義乃道あり者と見れども其の善惡入るる法と見
 魂魄と考ひてやくも奇怪なりとの非ありと考ひ又其側なる

者も多し八面く河順の風を憐れ成つての志乃道あり之とて君を
 第一とて憐れむと云ふ者をとて是と偽り油れは誠は忠信の徳と
 好む人少しあるを孔子も我を徳と好むと也成好むやくす人
 女と身非ずとの多し其のこゝ君長を人好むと云ふ惡む所
 正なりと云ふは非なるたのづかしの中非非分者多し其の
 重なるに似て非分者多し其の時昂貴田南と云ふありて其
 ても善く勅すず有てても惡く懲らすべし

禮義第八

一其其好惡なりと云ふと云ふは非なる禮義を則と云ふと則と云ふは

けて孝行不しとも身と漢女用と節して以て父母と事ふ此
 庶人乃孝行也即此是已優待入養ふて小家と事ふ川中
 主入たる者社中もあはば酒宴拵無と好く衣食住と事に
 分ふて家室修の事あり時をたのむて困窮及むて父母の供養も
 怠りす妻子を養育も怠りて終つ家内者として饑寒の憂
 慮はるむやれと主人たる者のそを情と敬養を以てせむ
 財用と節儉して孝言乃甚とせむ條を以備と事して御と
 父母孝養と事し妻子奴婢も愛育す人即此是已優待
 乃道と事り志と況と大なる天下國家と治家入るべき也

禮我として制と事と志と表れていへば又法制禁令と布て詳細
 なく致すとすれども好悪中かまれ必人氏入敬服と事す
 けす衣襟違耕作の事と事ふ人清風をれ子を可と事して
 上禮と好のは則氏入敬養をけくと義と好のは則民被て服せ
 ず亦多く上信と好のは則民被て情と用ひて事ふて事ふて
 けのむは乃氏事と事す子と被負と事ふ人の多し抑は國事を
 治家入の唯徳を以て徳を制して以て非禮非義を以て以て
 視聽言動も亦多く仁の要と得る時取つて忠信正直の士近て
 かの徳も面被の人陳と事も事と得る事と事て好悪も亦多く

之辨令す所も之情を包して下民に敬服して今上の為力な
 者之情實を月ゆひよよと人を教て下民に業を細分るを之知
 するも之も月ゆひよ下なひにお作り歎くやゆくして國を安ん
 ぜざるは之の故也唐堯乃先恭克讓虞舜乃温恭允塞より外
 歷代代々明君賢臣の國を安んずるを不す此例が之を權威の
 かえりて己を制するは皆て己と其心を抑はして明れを去れ
 君臣皆之を私智として之に省察滅損の事を制するは皆
 任我方正を去退き隠れ巧術檢利の人進めて上下を損
 ても上乃益とせん上下より上を損しても下の益とせん其の

上下をいふは作り歎くをいひては國を安んずる國を
 安んずる

學問第九

教を禮義と能く能く能く其心を學問と好む好まざるは
 學問といふは天下國を治するの術を人教と建てて其
 禮樂の道とせしめて礼を尊ぶるを教とて學問と好むといふ
 又は之を君の心を治して何れとす所も義とて何れも
 教と禮とてす所を好むといふ孔子の門人師者此也といふ
 好むの語といふは之を尊ぶる禮義といふは學問といふは之を

魯侯乃ノ王ノ人ノと云ふ一系名臣乃侍奉一を魏程準ウヱイテイジュン程乃ノ法ノ以て造スる
 こと知は我巧ウチノウカセハハ宮室を造るは備造く侍ノと謙退すこと何
 事ノ亦ノやハく唐虞三代乃聖王之政道を知てを法制ノ以て治スるは
 以て世ノとも治スるは理ノ勿レにハ及ズと知りて格も謙退して我ノ治スる
 こと人ノ知と世を憂ムものぞく不仁もいふべきは人既孔子乃初ては
 多し魯國を中都と云ふ所の事ノ也ト知ルふを政ノ以て行フるは一年の
 治スるやて隣國乃諸侯も皆孔子此政ノと則シてす亦ノ以てハまニて魯ノ孔
 子ノ政ノを大司寇ノの官ノに遷スるは二三年のほどに魯國大治スるは法ノ
 設て用ゆル不及ズと云ふは國中ノも毒ノを去リて民ノを安クに知りて是を我ノ治スる

者何はとの多し言は空かあして聖王乃政道と用ゆれば
 何事と云ふ人け敷く事すも天子と平治せんと思り今世
 尚て我ノ捨てられ治スるは我ノの戦國の時を去リる乃乃と聖王
 治スる者も天子乃卯ノにあはれと思つれば今教てられれば
 こと何事と云ふも事ノ也トす所ノ也ト世の九章ノは法もいふか事ノ私ノ心ノ
 いふことありて皆古乃聖賢乃教ノを則シて述スるは事ノもいふはれは
 世も君長も法の位ノを以て治スるは事ノもいふはれは事ノもいふはれは
 九章ノ乃序ノを用ひてを政ノを以て治スるは事ノもいふはれは事ノもいふはれは
 道乃天下ノなりりれ我ノとれ東周とせんは庶幾ノ人々寛政三年事ノ也

乃七月十日百二志子一早。

東都 雄風館藏

彫工 宮園六虎門

藤園堂

250.-

愛 知 県



1103267232